

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900192
法人名	医療法人康仁会
事業所名	グループホーム 桃太郎
所在地	愛媛県四国中央市中曾根町994番地
自己評価作成日	平成22年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

～桃源郷を目指して～という運営理念の下、人の和を大切に、楽しく暖かな心の交流のあるグループホームを目指しています。職員の一入一人が『認知症』という鬼を退治する桃太郎になれるよう、愛犬のハナちゃんとともに日々奮闘中です。桃太郎のおばあさん(入居者様)から学ぶことは多く、人生の大先輩として敬いつつ、本当の家族のように時には甘え、笑い声が絶えないグループホームです。紙の街という地域性を生かし、様々な紙製品(規格外の製品等、地域からの寄付が多く、材料には事欠きません)を利用しての作業療法、アニマルセラピー、音楽療法、季節の花や野菜の栽培による園芸療法等、広く浅くの実施ですが、少しずつ効果を上げています。また、外出行事も多く、外食やドライブを楽しんで頂いています。外出行事の時は、同法人内のグループホームも誘い、交流を図っています。また、校区の各学校との交流や、消防訓練の参加等、地域との交流も徐々に増加してきています。医療面については、常勤の看護師を採用。看護師不在時も、隣接する介護老人保健施設百の里や協力病院である西岡病院との連携により、安心した生活を送って頂けます。個別ケアと、共同生活による馴染みの関係との両立を目指し、ケアの質向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員で話し合っ作成した理念を掲げ、家族の様な温かな関係づくりを念頭にサービスの向上に常に前向きに取り組んでいる。運営推進会議を積極的に活用し、出された意見やアイデアを着実にサービスの向上に活かしている。地域住民との交流や連携を大切に、利用者が地域の中の一員として暮らせるよう支援している。市の特産品の紙を利用した作業療法を取り入れたり、愛犬とのアニマルセラピーや音楽療法等を行い利用者の機能維持や楽しみを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	医療法人康仁会 グループホーム桃太郎
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	大野 弘美
評価完了日	平成22年5月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ～桃源郷を目指して～という、ホーム名にこだわった理念の下、入居者と職員が、大家族のように仲良く過ごせる環境を目指している。出勤時には「ただいま！」退勤時には「行ってきます！」と挨拶すると、入居者も笑顔で手を振ってくれる。理念を年間・月間目標として具体化することにより実践に繋げるよう努めている。また、毎月実践できたか反省し、次月の目標に活かしている。</p> <p>(外部評価) 基本理念を見直すため職員全員で話し合っ、より具体的にわかりやすい理念を作成している。それを踏まえながら、職員が個々に課題等を月間目標として掲げ、毎月開催のスタッフ会議で振り返りを行い理念の実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 校区内の小中学校、高等学校等と交流の機会を設けている。例えば、受験シーズンに合格祈願の絵馬（貼り絵）を作って贈呈したり、高校野球のシーズンに優勝祈願のきび団子（紙粘土で作った団子に一つひとつ応援メッセージを記入）を贈呈したりしている。そのお礼の手紙に、入居者も目を細めている。また、散歩時に挨拶を交わすことで、近所の人からも野菜を頂いたり、雨が降り始めると洗濯ものを入れるよう声をかけて頂いたりしている。</p> <p>(外部評価) 自治会に入会している。自治会長より祭りなどの行事の情報をもらい参加している。近隣の住民とは雨が降り出すと洗濯物を取り込むよう教えてくれたり、散歩時にあいさつを交わしたり、集会所の掃除をする等地域の一員として日常の付き合いができています。また、近隣の小中学校、高校との交流も行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 庭先の植物を近隣の方におすそ分けしたり、お世話になった時は、必ず何らかのお礼をし、入居者自身の役割にもなっている。何か贈呈する時は、代表者（入居者）が立派に挨拶したり、文章を書くのが得意な人には手紙を書いてもらったりしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 前年度より、会議形式だけの硬苦しい内容ばかりでなく、交流の場と位置づけ、カラオケ大会や消防訓練等を行う中で、グループホームを理解して頂くよう心掛けた。その結果、集会所周辺の掃除の依頼等、地域の方からの提案も頂けるようになった。</p> <p>(外部評価) 自治会長、市職員、消防署員、利用者や家族にも参加してもらい事業所の取り組みや課題などを議題に挙げて活発な会議となるよう工夫している。参加者からの意見や要望、アイデアをサービス向上のために意欲的に活かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃から、市役所まで出向いたり、電話やメールにより、相談の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。担当者には、頻回の相談にも関わらず、いつも丁寧に対応して頂き、感謝している。また、前年度よりキャラバンメイトの職員2名が、市の事業に参加する機会があり、以前に増して協力関係を築きやすくなった。</p> <p>(外部評価) 日頃から市役所に出向いたり、電話やメールで相談したり事業所の現状を話している。職員がキャラバンメイトとして市の事業に参加し協力関係を築いている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関の施錠は原則、防犯の意味(夜間等)のみとし、季節にもよるが、天気の良い日は網戸にしている。転落防止のために、階段部分に扉がついているが、万一の火災時等には、簡単に開くようになっている。また、身体拘束の弊害につき、研修会も行っている。</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束とその弊害について承知しており、さらに勉強会を行い理解を深め、言葉遣いにも互いに注意し合いながらケアに取り組んでいる。玄関の施錠も夜間防犯のためにする以外、日中はしていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修に参加し、伝達講習することで、何気ない些細なことも虐待に値する可能性があることを職員全体で周知している。また、グループホーム内での虐待が見過ごされていないか、家族による虐待が見過ごされていないか注意しながら日々の様子を観察し、検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者が、外部研修で学んだことを、他の職員にも伝達講習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書や重要事項説明書の正式な文章で理解しにくい ため、「入居にあたっての確認事項」という書類で更に説明を補充しながら、十分にご理解いただいてから契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常的に利用者やご家族の意見を聞くよう心掛けているが、更に家族会の開催や、桃太郎自治会を開催することにより、家族や入居者の意見を聞く機会を設けている。また、その結果は、運営推進会議にて報告したり改善策等を検討したりしている。 (外部評価) 家族会で家族のみで話し合う時間を設ける等、意見を出しやすいように取り組んでいる。また、変化のあった時だけでなく、普段の何気ない様子も報告する等管理者は家族と連絡を密にとり、その中で家族の要望等を聞き取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ホーム内では、月に1回スタッフ会議を開催し、原則として全員参加で意見や提案を聞いている。また、その議事録は代表者に提出し、随時ホームの運営に反映させている。また、代表者は月に1回法人内全体の各事業所の運営に関する意見や提案を聞く機会を設けており、事業所や職員の意見を反映し法人内の連携強化も図っている。</p> <p>(外部評価) 毎月開催のスタッフ会議で出された職員の意見や提案を法人全体の運営会議で管理者が報告したり、理事長と職員が直接、話したりしている。人事異動も職員の意向を聞き入れている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 毎月末、理念に沿った当月の反省や次月の目標、業務上の問題等を記載し、提出している。報告に対し、代表者から、励ましの言葉やアドバイス等を得ている。また、何らかの問題等が発生すれば、その都度報告・連絡・相談を実施し、適切に対応してくれており、職員一同やりがいのある働きやすい環境に概ね満足している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修会に積極的に参加できるよう、配慮している。また、職員自身も自分の休日を利用してスキルアップに取り組んでおり、自分の参加した研修については、スタッフ会議時に伝達講習している。また、諸事情で、なかなか外部研修に参加できない職員も、自宅に持ち帰ったり昼休みを利用したりして、ビデオによる自己研修に努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 各種研修会や会議等で交流を深め、サービスの質の向上を目指している。市内のグループホームと情報交換したり、近日設立予定の四国中央市グループホーム連絡協議会（仮称）の準備段階から関わり、子育て中等の理由でなかなか外部研修に参加できない職員の支援として市内での定期的学習会開催等を検討中である。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前調査では、センター方式を参考に作成した情報収集様式を用いている。入居判定会議で職員に情報提供し、入居時から本人の生活習慣や思考を配慮した初回ケアプランが作成できるように反映している。入居後は、本人の困っていること、不安なこと、要望等を積極的に傾聴し、ケアの実践に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居当初は特に、家族との連絡を密にとり、入居者の情居を伝えている。家族にとって困っていること、不安なこと、要望等もその都度傾聴し、対応している。行事等の写真は、ホーム内に掲示したり、ホームだより(桃太郎だより)や個人通信(健康通信)にも添付。信頼関係を得るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 転倒リスク評価や、ADL状態のチェック、NMスケール等を事前調査時に実施し、ケアプランに反映している。グループホームの環境が本人に適したものも見極め、必要に応じて他のサービスの紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の大先輩であるという意識を持ち、職員の分からないことや知らないことを教えていただき、感謝の言葉を述べている。また、入居者の誕生日にはホームを上げてお祝いしたり、母の日には感謝を込めたプレゼントをしたりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何か変わったことがあった時だけの連絡だけでなく、日々の暮らしや気付きの情報を共有し、職員と家族が協力して本人を支えるよう努力している。家族もホームの運営に協力的であり、感謝している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 家族だけでなく、知人や親戚の方が気軽に面会に来られ、お話しされている。頻回に来て下さる面会者とは、他の入居者とも馴染みの関係が構築され、挨拶を交わしたり、世間話をしたりしている。また、職員も面会者とのコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 利用者にレターセットをプレゼントし、それを使用し家族や知人に手紙を書いたり、年末には年賀状を出したりしている。また、昔からの知人や友人の面会もよくあるため関係を保てるよう支援を行っている。利用者の馴染みのスーパーに買い物に出かけることもよくある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の準備や片付けなど、日々の暮らしの中で個々の役割が自然にできており、支え合う場面が多い。入居者が入院した時には病状を確認の上、手作りのお見舞いカードを作成し患者の負担にならない程度の人数や時間・回数を配慮しながら交代にお見舞いに行っている。「早よ元気になって帰って来なあよ。待ちよるで!」と、時にはお互い涙しながら手を取り合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後他の施設に入居した場合、出来るだけ詳しく情報提供を行い、リロケーションダメージを最小限に食い止められるよう努めている。可能であれば面会に行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 事前調査時に本人や家族から情報収集し、入居後も日々の関わりの中で、本人がどのように暮らしていきたいのか、それとなく確認するように心がけている。本人が、上手く伝えられない場合は、表情等から推し測ったり、家族から情報を得るようにしている。 (外部評価) 言葉に出して言えない利用者は普段の関わりの中で表情等から思いを汲み取ったり、言いやすい雰囲気や環境作りに職員全員で配慮している。得た情報を入居者気づきシートに記録して職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、本人や家族からお話を聞くようにしている。個々の人生史を記載するシートを用い、ケアプランに反映し、職員間で情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は情報を共有して、個々の生活リズムを把握するようにしている。その際、本人の残存能力に着目し、過介護を避けるよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 日頃の関わりの中で本人の思いや要望を聞き、自治会で全体的な意見や要望を聞いている。家族にも要望や意向の変化はないか聞いている。また、月に一回のカンファレンスまでに入居者別の担当職員により気付いた点を記載し、そのシートをもとにカンファレンスを開催。ケアプラン作成に反映している。必要に応じてミニカンファレンスも開催している。</p> <p>(外部評価) 本人及び家族の要望や入居者気づきシートで得た情報を加味しながら、カンファレンスを行い介護計画を作成している。利用者の状態が変化した時には随時に、それ以外は3か月毎に見直しを行い利用者本位の介護計画を作り直している。利用者個別の日々の介護日誌の記録が分かりにくい。</p>	介護計画に添った日々の記録が分かりやすい記録の方法を工夫し、さらに利用者本位のケアが実践できるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 介護計画の期間に応じての見直しはもとより、心身の変化が生じた時には職員間でのミニカンファレンス及び本人や家族と相談し、介護計画の見直しを速やかに行うようにしている。また、職員の気付いた点や状態の変化は、話した言葉等を用い、個々に出来るだけ詳細に記録しており、職員間の情報共有を心掛けている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議等で認知症に関連する様々な事についての勉強会を行ったり、介護保険についての説明や市の行う研修会の案内、職員が出席した研修会の伝達講習等を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 運営推進会議等で自治会や民生委員と意見交換する場を設けている。ふれあい相談員は月に1度訪問があり、校区内の小中学校とも交流を持っている。一方的な慰問等を受けるのではなく、必ず何らかのお礼をすることで、地域貢献できるよう、心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>事前調査の時に本人や家族にかかりつけ医を確認している。 かかりつけ医がない場合は、協力病院があることを説明 し、適切な医療が受けられるよう支援している。必要に応 じ、眼科や皮膚科、歯科等への受診援助も行っている。家族 や本人が希望する医療機関が遠方であり、職員が受診援助す ることにより遺された利用者へのサービスが低下する恐れ のある場合は家族に受診援助を依頼することがあるが、看護 師より当該医療機関に対し情報提供が行われている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>眼科や精神科など利用者の以前からのかかりつけ医の 受診を継続している。定期的な受診は職員が同行して いるが、遠方の病院は家族にお願いをすることもあ る。緊急時には家族にも来てもらう等、事前に話し合 いをして対応をしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>常勤看護師が健康管理を行い、異常の早期発見を心掛けている。 夜間や緊急時にはオンコール体制を取っているが、ホー ムの看護師が緊急に駆けつけられない時のため、併設施設 (介護老人保健施設)の看護師に協力を依頼しており、24 時間対応可能な状態になっている。老健の施設長(内科医 師)にも緊急時の判断や日頃の医療的指導等の協力が得られ ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、文書や口頭で申し送り、入居中や入居前 の情報を提供している。入院中は、病院関係者やご家 族と連絡を取り合い、早期退院に向けてアプローチし ている。また、可能な限り、職員や入居者が面会に行 き、励ましている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>終末期の看取りケアは、現在の所当ホームでは行った例が無 いが、入居者の中には、「ここで死に水を取って欲しい。」 との言葉が出た事もある。家族や地域の方にアンケートを 取って意向を聞いたり、その結果をもとに運営推進会議で話 し合ったりしている。看取りに関する研修会にも参加し、取 り組みを準備中である。</p> <p>(外部評価)</p> <p>重度化や終末期に向けて、入居時の早い段階から家族 との話し合いを行っている。家族からは事業所での看 取りの希望が出されていることから、看取りの体制と 協力医療機関との連携を考慮中だが、職員の理解や医 療機関の連携は得られていない。</p>	<p>看取りについてはマニュアルを作成して事業所として の方針を決定することが肝心である。また、職員の資 質向上も必要であるため研修等を行うことが望まし い。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命講習を受講したり、マニュアルを整備したりして、急変時や事故発生時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 昨年度より、地域の方やご家族の参加の下、消防署立会の防火訓練を年2回実施。想定を変えて色々な事態に対応できるよう努めている。また、職員と入居者でも、毎月想定を変えて避難訓練を実施している。運営推進会議では、自治会や併設施設にも災害時の救援を依頼して、具体的にどのような援助が可能か、一緒に検討して頂いている。 (外部評価) 消防署の協力を得て利用者とともに年2回の防火、避難訓練を行い避難経路や消火器の使い方を確認し訓練記録も作成している。また、毎月想定を変えて自主的に避難訓練も行っている。地域住民の協力については運営推進会議の中で依頼をし、具体的な協力について話し合いを行い応援連絡網の作成を予定している。	災害等に備えてよく訓練が行われているが、夜間想定や利用者の重度化を想定した避難訓練も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。個人情報の取り扱いに関して、日頃より職員全体で確認し合っている。言葉かけや対応も、親しみの中に尊敬の意を表すよう留意している。 (外部評価) 家族のような親しさの中にも節度を保ち、利用者一人ひとりに年長者としての敬意を払い、プライドを傷つけないような言葉かけや対応を職員同志が注意をし合いながら心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員側で決めた事を無理に押し付けず、自分で決めることができる雰囲気作りを心掛けている。また、日々の関わりの中で、本人のニーズは何か引き出せるような言葉かけを心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 集団としての流れを重視するのではなく、今どんなことがしたいのか本人の意向を聞き、可能な限り尊重するようにしている。日々の関わりの中で本人のペースを把握し、対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が衣類を選択できる場合は本人に任せており、自分での選択が困難な入居者に対しては声掛けし、好みの洋服を着ることが出来るよう援助している。整髪等もその方の能力に合わせて出来ない部分は介助しながらできるだけ本人の希望を尊重している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 朝食以外は、併設施設厨房にて調理された物を利用者と一緒に盛り付けたり、配膳・片付けしたりしている。ホーム内でもおやつ作りや食事作りをする回数を増やす努力をしており、材料の買い出しは入居者も同行してもらっている。食器は陶磁器を使用し、見た目も大切にしている。外でお弁当を食べたり、外食したりする機会もある。 (外部評価) 食事は併設施設で調理され、利用者と職員が盛り付けや配膳をしている。利用者と職員と一緒に食卓を囲み楽しく会話をしながら食事ができている。片付もできる利用者に手伝ってもらっている。併設施設合同の給食委員会を毎月1回持ち、利用者の好みや感想を話し合っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 糖尿病や高脂血症等の食事療法については、併設施設の管理栄養士の指導を得ながら、健康的な食事が出来るよう心掛けている。水分補給も定期的に行い、入浴後や外出後等特水分補給が必要な時には適宜追加している。また、個々の喉の渇きに応じて自由に水分が摂れるよう配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人の能力に応じて口腔ケアの介助をしている。また、口腔機能訓練として、嚥下体操を行っており、食事時のムセが非常に少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 自力での排泄困難な入居者は、排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。自力でトイレに行ける入居者も、流し忘れが多くトラブルに発展しそうなことがある。職員が定期的にトイレを確認し、流し忘れがあれば流すよう心掛けている。	
			<p>(外部評価)</p> 一人ひとりの排泄パターンを把握し、行動や表情をよく見て状態に合わせてトイレ誘導を行っている。リハビリパンツを使用している利用者もいるが、概ね昼夜ともトイレ誘導での排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 便秘の予防としては、主治医より緩下剤を処方して頂いたり、水分補給に留意している。また、適度な運動も心掛けている。家族の希望で、食物繊維のパウダーを味噌汁に混入している入居者もいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 入浴は、一人一人の入居者につき週3回以上を原則としているが、その日の体調、気分や外出等の都合で柔軟に対応している。入浴は個人のペースでゆっくり入って頂き、能力に応じて介助している。また、入浴剤の使用により、スキンケアとアロマ効果を得ている。	
			<p>(外部評価)</p> 週3回の午前の入浴を基本に、利用者の体調を考慮しながら柔軟に対応している。1人で入浴できる利用者には自由に入浴してもらい楽しい時間となるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 一人一人の体調に注意しながら、日中は出来るだけ活動を促し、昼食後に30分程度の午睡の時間を設けている。休息をとりつつ、日々の生活のリズムを整えるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人記録に服薬している薬の作用や副作用、服薬時の注意点等が記載されている用紙をファイルしている。また、特別な注意を払う必要のある薬の場合は、看護師より介護職員に説明するようにしている。看護師も十分知識の無い薬剤に関しては、適宜医師や薬剤師に連絡を取り指導を仰いでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野や出来ることに着目し、一人一人の力を発揮していただけるよう、お願いできそうな仕事を依頼し感謝の気持ちを伝えている。嗜好品は、月に2回好きな飲み物を選んで飲んで頂ける機会を設けている。 (Café de HANAの開店)喫茶の名前にもなっている犬の存在も入居者の役割や楽しみの一つとなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気や本人の希望、体調等を考慮し散歩やドライブ、外食、ショッピング、音楽会、美術展等に外出している。家族にも外出・外泊の依頼し協力を得ている。遠出はできない時も、天気の良い日には外気浴や近隣の散歩を楽しみ、気分転換を図っている。 (外部評価) 利用者が新聞や情報誌を見て希望する所に出かけたり、毎週、散歩に出かけるなど日常的に戸外に出かけるようにしている。また、花見等の季節のイベントや外食にも車で全員が出かけている。毎月発行の桃太郎だよりを通じて家族にもお知らせして参加してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て、少額のお金を自己管理している方もいるが、家族からの預かり金を事業所で管理している人が多い。 (施錠できる場所に個別に管理。月末に金銭出納帳をコピーして家族に送付し確認して頂いている。)ショッピングの時にはそのお金を使って頂いている。また、併設施設の自動販売機や売店の利用は、希望のある都度対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に手紙を送ったり、気軽に電話できるよう支援している。本人用の携帯電話を所持している入居者もいるが、操作方法が分からないので、その都度職員が操作して通話可能になったら本人に渡している。先日の母の日には、入居者全員に職員よりレターセットを贈った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングや玄関に生け花の得意な入居者の手により季節の花を飾って頂いたり、入居者たちが協力して作成した季節の壁画を飾っている。2階には入居者同士が談笑できるスペースを設け、ソファも配置している。空調は、湿度や気温、換気等にも留意している。</p> <p>(外部評価) 共用の空間は掃除が行き届き清潔である。気になる臭いもなく、室温も適温に保たれている。窓からは広く海が見え、周囲は木々や花が見える等季節感が感じられる。また、利用者の暮らしぶりの写真や手作りのカレンダーを飾り生活感を採り入れ、利用者が居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 2階には、テーブルとソファ、テレビが設置してあり、気の合った入居者同士が自由にくつろいでいる。天気の良い日には、自由に庭のベンチに座り、花や木々を眺めたり、小鳥のさえずりを聞いたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の写真や絵、本人の馴染みの品を持ち込み、居心地良く過ごせるよう配慮している。寝具は使い慣れたものを持ち込むか、業者からのレンタルか選択できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 家族と協力して利用者の使い慣れたタンスや仏壇、家族の写真や絵などを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように配置や飾り方に工夫がされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) リビングや居室は、バリアフリーになっている。廊下やトイレ、浴室には手すりを設置。自由に移動しやすくなっている。本人の居室の前には手作りの名札が飾ってあり、トイレもモチーフの暖簾が目印として飾ってあり、「トイレ」と表示している。</p>	